

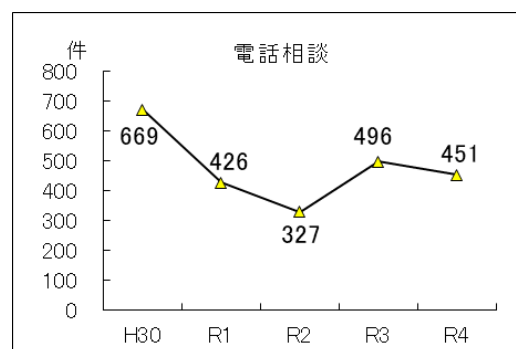
第2 地域福祉

1 住民主体の相談活動

番号	事業名	財源			
		自主 歳	補助	委託	事業
(1)	電話相談				

結果の概要

- 電話相談員に、精神保健分野の勉強会や傾聴に関する勉強会を開催した。
- 電話の匿名性により、こころの悩みや生活不安等の訴えを傾聴し、相談者に寄り添う形で対応した。
- 相談員会議を毎月1回開催し、情報共有及び対応方法の検討を行った。



実績等

<事業実績>

相談日	月～金曜日（午後1時～4時）
相談方法	相談専用ダイヤルによる電話受付
相談員	1人で担当（8人の交代制）
相談日数	243日
相談件数	451件
相談員会議	12回

<相談内容>

内容	件数	内容	件数	内容	件数	内容	件数	内容	件数
生計	0	年金	0	職業、生業	4	住宅	1	家族	7
結婚	0	離婚	0	健康、衛生	2	医療	0	精神保健	423
人権、法律	0	財産	1	事故	0	児童福祉	0	母子保健	0
教育、青少年			0	母子、父子福祉	0	高齢者福祉	4	苦情	2
心身障害児（者）福祉			1	ボランティア	0	その他	6		

※相談内容は、一回の相談で複数の相談内容がある場合があるため、一部重複あり。

分析・課題

- 継続相談者（423件）が全体の9割近くで、従前から利用している方は精神保健の相談が主であった。新規相談（28件）は新型コロナウイルス流行やワクチン接種に関する「健康」「医療」、仕事や貸付などの「職業・生業」、高齢の親についての「高齢者福祉」等の相談があった。
- 電話相談員の高齢化により、体制の維持が厳しくなっている。
- 精神に関わる専門的な相談内容が多いため対応に苦慮しており、電話相談員へのメンタルヘルスケアの対応が必要である。

番号	事業名	財源			
		自主 歳	補助	委託	事業
(2)	ふれあい福祉相談				

結果の概要

- 新型コロナウイルスの感染拡大予防のため令和2年2月下旬以降、対面での実施は休止していたが、相談員会議で検討し、令和4年6月より2拠点（菊野台・西部）で対面での相談を再開した。
- 年間6回の相談員会議、年間2回の相談員研修を実施し、様々な相談に寄り添った対応をするための方法を検討した。
- 利用者へは、チラシや地域福祉センター内掲示、ホームページ掲載等の方法で周知した。
- 7人の相談員が交代制で担当し、生活の『困りごと』や『悩みごと』等だけでなく、日常の何気ない会話ができるような話しやすい環境を作り、聞き取るように努めた。

実績等

- 新型コロナウイルスの感染拡大防止予防の観点から、利用者にはできる範囲で氏名・連絡先、体調を聞き実施した。また実施時間も短縮し、13時までとした。
- 利用者数と内訳

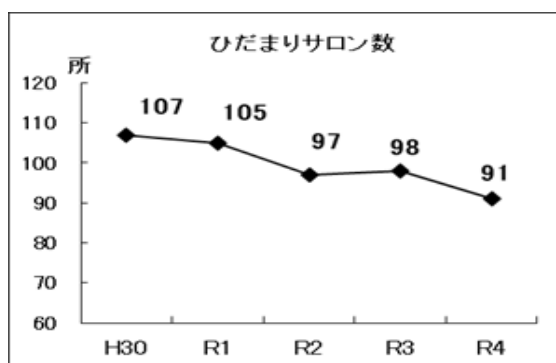
名称	相談場所	相談日	相談員	実績
菊野台	市民活動支援センター 菊野台コーナー	水曜日 (祝祭日を除く) 午前10～午後1時	各コーナー 1人担当 7人交代制 (欠員1名)	年33回実施
西部	市民活動支援センター 西部コーナー	月曜日 (祝祭日、第4を除く) 午前10時～午後1時		年24回実施
	菊野台	西部		合計 57回
相談	3件		1件	4件
話し相手	86件		102件	①188件
血圧	1件		58件	②59件
				① + ② = 247件

2 住民主体の交流活動

番号	事業名	財源			
		自主 歳	補助 市	委託	事業
(1)	ひだまりサロン事業				

結果の概要

- 新規立ち上げは1サロン、解散は8サロン。
- 解散に至る主な理由は、新型コロナウイルス感染症の影響、代表者の転居、活動者・参加者の高齢化によるものであった。
- 約675人がサロンスタッフとして活動に参画した。
- サロン応援スタッフ、地域福祉コーディネーター、



地域支え合い推進員及びボランティアコーディネーターが連携を取りながら、サロン立ち上げや活動の継続、再開の支援を行った。

- 活動状況のアンケートを実施し、活動再開に関する悩みが多いことが分かった。各サロンの交流・情報交換を目的に、2年ぶりにひだまりサロン交流会を実施した。「地域のつながり」をテーマに、網代正孝氏による講演会と各圏域に分かれた交流時間を設けた。約103名のサロンスタッフが参加した。

実績等

- 各グループ活動内容一覧（年度内に解散したサロンを含む）

	サロン名	活動場所	活動内容	活動日、実績
1	サンルーム西華	西部地域福祉センター	茶話会	第2月曜日 10回開催
2	緑ヶ丘おしゃべりサロン	緑ヶ丘地域福祉センター	脳トレ、体操、琴等演奏会	第2火曜日（奇数月） 6回開催
3	国領ひだまり	調布市市民プラザあくろす	茶話会	第2・第4金曜日 17回開催
4	ゆたかサロン	ライオンズマンション1階談話室	茶話会	第1・第3火曜日 24回開催
5	多摩住口号棟ひだまり	多摩住口号棟集会室	食事、クリスマス会	第3金曜日 11回開催
6	ひだまり入間	入間地域福祉センター	近況報告等	第3火曜日 11回開催
7	そよ風サロン	個人宅、調布住宅	歌、体操、ぼけない君ビー玉	第1木曜日・第4木曜日 23回開催
8	木曜クラブ	多摩川住宅ハ10号棟集会室	体操、歌、おしゃべり	第3木曜日 10回開催
9	トラジ会	西東京南部同胞生活相談総合センター	健康体操、おしゃべり	第2木曜日・第4木曜日 17回開催
10	ひだまり菊野台	個人宅	食事、体操、相談	第4木曜日 9回開催
11	ふれあいランチ	シルバーピア調布染地	茶話会	第1・第4木曜日 14回開催
12	若葉三丁目ひだまり	個人宅	読書会、近況報告	第1・第3火曜日 24回開催
13	きさらぎサロン	たづくりみんなの広場	パッチワーク、茶話会	第2水曜日 13回開催
14	サロンいこい	布田老人憩いの家	絵手紙	第2金曜日 9回開催
15	からむしの里	布田老人憩いの家	歌、ギター伴奏	第3水曜日 ※令和4年度解散
16	ひだまりぷちぼあん	ぷちぼあん	おしゃべり、読書会	第2土曜日 9回開催

第1部 第2地域福祉

17	なかよしサロン	小島町ふれあいの家	散歩、輪投げ、工作、体操	第3月曜日 8回開催
18	緑ヶ丘一丁目自治会 グリーンサロン1	緑ヶ丘地域福祉センター	語らう会	第2木曜日・第4木曜日 10回開催
19	アゼリアお茶の会	マンションアゼリア集会室	茶話会	第2木曜日・第4木曜日 21回開催
20	農園サロンののはな	西つつじヶ丘の畑	園芸	毎週火曜日 24回開催
21	飛田給ひだまり	西部ふれあいの家	茶話会、輪投げ、ポッチャ	第2木曜日 11回開催
22	農園サロンぴーまん	西つつじヶ丘の畑	園芸	毎週木曜日ほか 37回開催
23	サロンあざみ	シルバーピア調布染地	茶話会	第4月曜日 ※令和4年度解散
24	調布ケアラーの会クローバー	調布市市民プラザあくろす	家族介護者の集いの場	第3木曜日 12回開催
25	緑ヶ丘健康麻雀サロン	緑ヶ丘地域福祉センター	麻雀	毎週木曜日 48回開催
26	緑ヶ丘一丁目自治会 グリーンサロン2	緑ヶ丘地域福祉センター	歌	第1・第3木曜日 1回開催
27	お茶のみクラブ	緑ヶ丘地域福祉センター	食事、音楽・映像、体操、手芸・書道・美術	第1・3月曜日 ※令和4年度解散
28	野川芝桜の会	野川河川敷	芝桜の手入れ、野川清掃	第2火曜日・第4日曜日 19回開催
29	やよい会	下石原地域福祉センター	カラオケ、交流	第2・第4木曜日 24回開催
30	緑ヶ丘2丁目あきらさん家	ほんのもり	個別訪問、近況報告	第3月曜日 0回開催
31	金曜サロン	市営住宅集会室	音楽・映像、体操、詩、ゲーム・遊び	第2曜日 ※令和4年度解散
32	アズランカ	個人宅	子育て、手芸、ワークショップ	第2・第4水曜日 21回開催
33	つどい場カフェ	個人宅	介護について話し合う	第3月曜日 0回開催
34	ひまわり	ネオコーポ調布多摩川集会室	茶話会、麻雀、手芸	第2水曜日 24回開催

第1部 第2地域福祉

35	童謡を歌う会シンガーズ・グリーン	緑ヶ丘地域福祉センター	近況報告、歌	第2土曜日 14回開催
36	上布田大好きOG/OB会	上布田自治会館	情報交換、竹細工、そば打	第1月曜日・3月曜日 16回開催
37	染地ふれあいサロン	染地ふれあいの家	10筋体操、映画会	第3水曜日 16回開催
38	サロン木洩れ陽	こころの健康支援センター別館	食事、おしゃべり	第2金曜日、第4月曜日 5回開催
39	の～んびり茶の間	多摩川住宅口7号棟A・B・C集会室	茶話会	第4日曜日 10回開催
40	手話でひだまり in 富士見	富士見地域福祉センター	手話の勉強	第4土曜日
41	自主トレたんぽぽ	富士見地域福祉センター	体操	毎週木曜日 45回開催
42	なかま  町づくり	深大寺東第一自治集会場	おしゃべり、工作	毎週水曜日 47回開催
43	金子ひだまり	国領3丁目第2アパート集会所	輪投げ	毎週水曜日 39回開催
44	テラコヤ3	金子地域福祉センター	子育て	第3金曜日 ※令和4年度解散
45	くすのき絆サロン	くすのきアパート集会室	水彩画、茶話会	第1・第3月曜日 24回開催
46	メイプルカフェ	メドウイン調布	座談会	第2・第4水曜日 24回開催
47	多摩川太陽グループ	下石原地域福祉センター	手芸、出前講座	第2木曜日 10回開催
48	花カフェ	美容院ラリス、ぬくもりサロン	介護の情報交換	第1・第4火曜日 24回開催
49	みかん健康体操	ときわぎ国領ライフタウン国領	体操、脳トレ	月2～3回月曜日 25回開催
50	ポーノ・ポーノ	たづくり	アープ体操	第3火曜日・第3日曜日 18回開催
51	くすのき健康麻雀サロン	くすのきアパート1号棟集会室	麻雀	毎週木曜日 第1・3土曜日 71回開催
52	若葉カフェ	東部公民館	おしゃべり	第3水曜日 12回開催

第1部 第2地域福祉

53	なごみ深大寺	深大寺地域福祉センター	折り紙、工作	第4金曜日 11回開催
54	なんてったってクラシック	染地地域福祉センター、染地ふれあいの家	音楽鑑賞	第3水曜日 12回開催
55	わかくさサロン	都営八雲自治会館	近況報告、脳トレ	第3土曜日 12回開催
56	ふじみ手芸とおしゃべりサロン	富士見地域福祉センター	手芸、おしゃべり	第2・4水曜日 20回開催
57	うたごえ喫茶 in 富士見	富士見地域福祉センター	おしゃべり、歌	第3土曜日 0回開催
58	オアシス深大寺	個人宅	手芸、茶話会	第1月曜日 10回開催
59	テラ多摩川サロン	フィットネス&カルチャースタジオ Terra	体操	第1・3火曜日 23回開催
60	サン歩会	個人宅	散歩、茶話会	第1木曜日 8回開催
61	西部輪なげサロン	西部ふれあいの家	輪投げ、茶話会	第4木曜日 0回開催 ※令和4年度解散
62	おひさまカフェ	個人宅	園芸、手芸	第3金曜日 9回開催
63	くすのきひだまり	くすのきアパート 集会室	カラオケ	第2・4月曜日 24回開催
64	早朝体操会	市役所前庭	体操、茶話会	土曜日を除く毎日など 12回開催
65	りはびり麻雀の会	染地地域福祉センター、都営染地三丁目アパート集会室	麻雀	毎週火曜日 34回開催
66	AMK ふれあいネットワーク	朝日マンション国領の諸施設	散歩、体操、情報交換	活動項目により様々 (毎週~1回/年) 39回開催
67	杜と光のサロン	アトラス調布	モルック	第3木曜日 14回開催
68	エンジョイピンポン	富士見地域福祉センター	ピンポン	第2・第4土曜日 37回開催
69	山野園芸サロン	神代の杜、農園等	園芸	第1・第3火曜日 第2・第4土曜日 78回開催
70	ほっとカフェ談	西部地域福祉センター	交流、読み聞かせ	第3金曜日、 第5週目のいずれか 20回開催

第1部 第2地域福祉

71	談楽バードカフェ	富士見地域福祉センター	川柳、ピンポン、談笑	第4火曜日 12回開催
72	ひだまりテニス	市民多摩川テニスコート	テニス、交流	第2・4火曜日 24回開催
73	寿会	緑ヶ丘地域福祉センター	近況報告、相談	第2金曜日 10回開催
74	友悠麻雀初心者クラブ	緑ヶ丘地域福祉センター	麻雀	第1・第3火曜日、 第2月曜日、第4金曜日 30回開催
75	ズッキーニ	小島町ふれあいの家	ウクレレ	第1・第3月曜日 17回開催
76	いきいき会	小島町ふれあいの家	雑談、江戸川柳	第2・4火曜日 ※令和4年度解散
77	手話ダンスすずらんサロン	緑ヶ丘地域福祉センター	交流、手話ダンス	第1・3木曜日 0回開催
78	ひだまりあみもの	ライフタウン国領	あみもの、交流	第1・第3金曜日 24回開催
79	C.O.C.O.オアシス	調布市こころの健康支援センター	おしゃべり、ゲーム、音楽	第3土曜日 12回開催
80	みんなよってっ亭	くすのきアパート4号棟集会室	懇談、10筋体操	第2・第4火曜日 22回開催
81	ハッピーマニア	菊野台地域福祉センター	ストレッチ、ズンバ	第3日曜日 11回開催
82	ひまわりテニス日曜日クラブ	神代中学校テニスコート	テニス、交流	第1火曜日・第1木曜日・ 第4日曜日 24回開催
83	サロンハイム	神代植物公園 他	散歩	第2日曜日 0回開催
84	まちかどサロン	緑ヶ丘地域福祉センター	体操、朗読、散歩、広報誌発行	第3火曜日 21回開催
85	飛田給ひまわりの会	西部公民館	体操、折紙、工作、勉強会	月2回（曜日不定期） 10回開催
86	メリーゴーランド	たづくり	外国人との交流歓談	第1木曜日・第3月曜日 24回開催
87	もりもりサロン	覺證寺	食事	毎週金曜日 ※令和4年度解散
88	三火会	野ヶ谷ふれあいの家	茶話会	第3火曜日 12回開催

89	みんなの体操サロン	西部地域福祉センター	体操、茶話会	第4木曜日 12回開催
90	子育てランチうさくらんち	個人宅	食事、子育て、相談	第2火曜日・第3水曜日 17回開催
91	うたごえサロン金子の里	国領3丁目第2アパート集会所 他	交流、歌	第4木曜日 9回開催
92	2・4火曜会	深大寺こもれび	10筋体操・茶話会	第2・第4火曜日 23回開催
93	けやきぶんこ	西部地域福祉センター	絵本、子育て、おしゃべり	第2金曜日 13回開催
94	上石原ひだまり	上石原ふれあいの家	10筋体操、茶話会	第2・4火曜日 18回開催
95	めだかの学校	八雲台ふれあいの家、八雲台小学校ユースホール	10筋体操、茶話会	第1・第3火曜日 23回開催
96	サロン・ド・わきあいあい	調布南キリスト教会	茶話会、工作、体操	第1火曜日 12回開催
97	サロンひかるげんじ	光源寺香ホール	10筋体操、講座	第3水曜日 11回開催
98	みんなDEネットサロン	ノートルダム修道院、(オンライン参加可)	パソコン、スマホに関する情報交換、茶話会	第3水曜日 12回開催
99	かわせみ会	都営入間町2丁目アパート集会所	10筋体操、茶話会	毎週金曜日 ※令和4年度新規立ち上げ

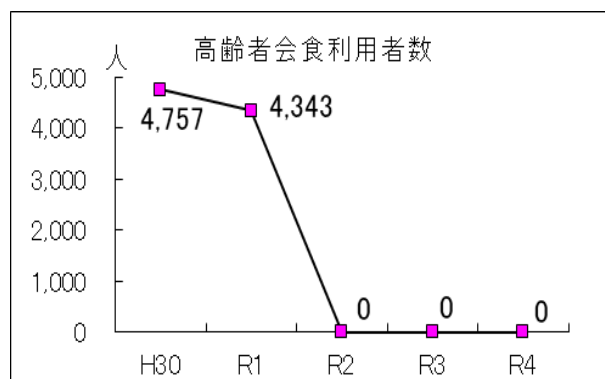
分析・課題

- 活動内容を工夫し再開したサロンが増加した。一方、感染症対策や会場の確保などが難しいサロンもあり、地域支え合い推進員、地域福祉コーディネーター等が、伴走型支援によるサポートをする必要性が高まっている。
- 引き続き、活動への参加を自粛されている方もいるため、自宅訪問や電話連絡を行うなど、個別対応を行っているサロンも見受けられた。
- 幅広い世代にひだまりサロンの活動を伝え、参加の機会をつくるため、社協、市民活動支援センターのホームページの活用、ひだまりサロン紹介冊子等の構成や配架先の見直しを図る必要がある。
- 現在、地域活動やサロン活動経験者から構成されたひだまりサロン応援スタッフ（4名）とともに、サロン活動の広報や運営について定例会を設けている。今後、応援スタッフを各福祉圏域から募り、各サロンの地域ニーズを把握するとともに、地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員と連携しながら、活動を展開させていく必要性を感じた。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	高齢者会食サービス		市		○

結果の概要

- 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、令和4年度の会食サービスは全て休止とし、利用者については実施曜日に電話による安否確認を行った。
- 利用者の安否確認において深刻な状況はなかったが、様子が心配な方については地域包括支援センター等関係各所と連携し対応している。
- 事業休止期間の利用者と調理ボランティアの様子を確認するため、各地域センター別に交流会を1回実施した。(染地のみ2回実施)
- ボランティア全員に、今後の活動に向けた意向を確認するため、郵送によるアンケートを依頼した。



実績等

地域福祉センター	利用者数 (人)	実施曜日	会食実施回数	ボランティア数 (人)	安否確認電話回数
菊野台	12	火	年間0回	10	413回
深大寺	5	火	年間0回	12	271回
下石原	7	水	年間0回	12	336回
富士見	10	水	年間0回	6	508回
染地	7	水	年間0回	14	239回
西部	5	木	年間0回	13	292回
調布ヶ丘	9	木	年間0回	7	225回
緑ヶ丘	6	木	年間0回	8	287回
入間	11	金	年間0回	7	536回
金子	10	金	年間0回	7	440回
	計82人		計0回	計96人	計3,547回

※利用者数及びボランティア数は令和5年3月31日現在の人数

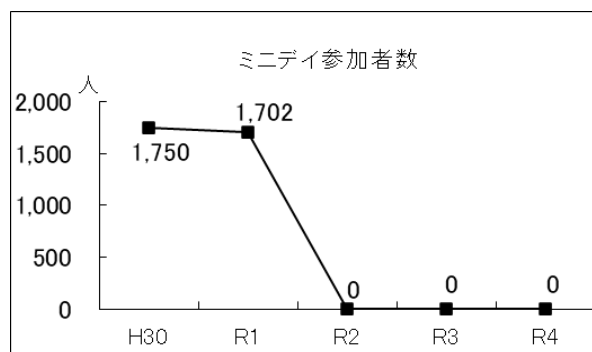
分析・課題

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、外出や会話の機会が減ったことによる健康面や精神面への対応が課題となっている。
- 利用者の高齢化による外出困難者や公的サービス利用開始者が増加している。また、ボランティアの手作りの食事提供を希望する人が多い。
- 長期活動しているボランティアの高齢化による人員不足や利用者へ食事を提供したいという思いに対し長期中止による意欲の低下がみられる。一方、ボランティア経験が浅い方や他の活動をしている方によっては、見守りやつながりを目的とした会食以外の活動に対しても協力的である。
- 交流会やアンケート結果を踏まえ、今後の事業のあり方や実施方法、利用条件等について検討し方向性を定める必要がある。各地域によって課題や希望等が異なるため、地域支えあい推進員等と連携しながら実施可能な地域から再開を目指していきたい。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(3)	高齢者会食ミニデイサービス		市		

結果の概要

○新型コロナウイルス感染拡大予防のため、令和4年度のミニデイサービスは全て休止とした。



分析・課題

○高齢者会食と連動して検討を進めてきたが、安全な運営体制の確保等、事業再開の見込みが立たないため当面の間休止することになった。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(4)	小地域交流事業	会歳			○

結果の概要

○新型コロナウイルスの影響を受けて、令和3年度に引き続き、事業実施については、各地域の実行委員会に委ねるものとし、各圏域の第6次調布市地域福祉活動計画と併せて実施内容を検討した。また、中止の場合もコロナ禍で何ができるかを地域の特性を生かし検討していくこととした。結果、13か所中、5か所が規模縮小や開催時間短縮等の工夫をしたうえで開催となった。その他一部の地域では令和5年度につなげるよう、実行委員会で交流企画や検討、アンケートを実施した。

実績等

地域福祉活動計画圏域	地域名(会場)	通常事業名	内容(別企画含む)
緑ヶ丘・滝坂小	緑ヶ丘地域福祉センター	緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどい(パート1)	規模縮小(実施時間の短縮、模擬店商品の持ち帰りの徹底、舞台客席の定期的な消毒と入れ替え等)のうえパート1のみ開催。
		緑ヶ丘・仙川地域ふれ愛のつどい(パート2)	
若葉・調和小	入間地域福祉センター	三世代輪投げ大会	例年開催は中止。 「若葉縁日(共催事業)」を若葉学校地区協議会と共催し、都営住宅の集会場及び公園にて開催。入間小地域実行委員会は輪投げブースを担当。
		入間はつらつ地域まつり	
	新春お茶会		
	金子地域福祉センター	金子バリアフリー映画体験会	例年開催は中止。 ① 小地域交流事業・金子地域アンケート実施。 ② 実行委員会にてチラシ等を配布し事業紹介

上ノ原・柏野小	菊野台地域福祉センター	菊野台地区地域のつどい	例年開催は中止。 5年度に菊野台地域の歴史を学ぶ「茶話会」を実行委員会向けに開催予定。
	調布ヶ丘地域福祉センター	調布ヶ丘わくわく広場 ～未来につなげよう～	来場対象者を限定のうえ開催。 大人対象とした企画を実施した。 (10筋体操、長唄・和楽器演奏、講演会、野菜販売)
第二・八雲台・国領小	国領小学校	国領わいわいまつり	開催時間を短縮し販売内容限定のうえ、「未来へつなげよう 地域の輪」をスローガンに開催。また、昨年度中止となった「障害平等研修」を実施。
北ノ台・深大寺小	深大寺地域福祉センター	ふれあいフェスタ北ノ台	北ノ台まちづくりネットワーク役員会で協議の上中止。
	深大寺小学校	深大寺ふれあいのつどい	実行委員会にて中止決定。
第一・富士見台・多摩川小	下石原地域福祉センター	下石原地区ふれあいのつどい	実行委員会にて中止決定。
染地・杉森・布田小	こころの健康支援センター	布田わくわく活動展	活動展という形で開催。参加された団体・こころセンター利用者を中心に活動状況の報告を含めた展示。若草商品をグループワーク利用者でミントショップとして販売。
	染地地域福祉センター	ボランティアまつり染地	会場が工事期間中のため、例年開催は中止。実行委員会交流会を3回実施。これまでのまつりの振り返り、次年度のまつりを企画検討した。
第三・石原・飛田給小	富士見地域福祉センター	富士見ふれあいのつどい	例年開催は中止。 「富士見ふれあいのつどい 実行委員会交流会」を実施
	第三小学校体育館	西部ふれあいのつどい	会場を変更し、規模縮小（舞台発表と地域情報コーナーのみ）のうえ開催。 昨年度に引き続き、西部ふれあいだより発行。

分析・課題

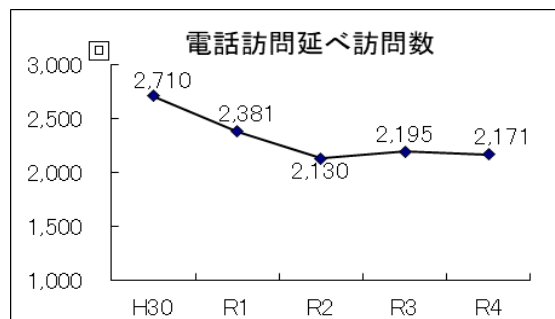
- 新型コロナウイルスの影響により、昨年度に引き続き中止となる地域が大半となったが、感染防止対策や工夫をしながら例年に近い形での開催が徐々に増えている。
- 従来のイベントも代替企画も、中止が続いてしまうと地域のつながりの希薄化や地域の担当者の変更等で、再開が難しくなってしまう可能性もある。つながりの維持や新たな人材の発掘が課題となる。
- 多くの地域で実行委員の高齢化が課題となっている。世代や新たな担い手の発掘が必要である。
- 様々なつながりが希薄化するコロナ禍だからこそ必要性の高い事業であり、感染防止対策や工夫を凝らし、各地域の状況に合わせた取り組みを第6次調布市地域福祉活動計画と併せて実施していく。

3 住民主体の訪問活動

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	ほのぼの電話訪問		市		

結果の概要

- 見守り三事業の一つとして、電話訪問員 8 人（月・火 1 名ずつ欠員あり）が午前中、利用者に電話を掛け安否確認を行うとともに、話をすることで孤独感の緩和を図った。
- 新型コロナウイルスの影響は続いていたが、電話訪問は休止とせず通常通り、事業を継続した。
- 新型コロナウイルスの感染予防、熱中症や住宅火災予防、特殊詐欺等への注意喚起と情報提供を、訪問員を通じて利用者へ適宜行った。
- 死亡や施設入所、他サービスとの重複等の理由で利用中止となった方が 6 人いた。
- 地域相談事業（ふれあい福祉相談員、電話相談員、ほのぼの電話訪問委員）の相談員研修を実施し、傾聴講座に 4 名の訪問員が参加した。
- 訪問員の情報交換や事例検討・共有の場として実施している電話訪問員会議は当初予定通り年 5 回開催した。
- 訪問員に 2 名の欠員が生じており、当該曜日については職員が対応している。



実績等

○利用実績

月	利用者数(人)	訪問回数(回)	月	利用者数(人)	訪問回数(回)
4月	55	202	10月	49	166
5月	52	168	11月	51	170
6月	51	213	12月	49	173
7月	52	186	1月	49	164
8月	47	187	2月	50	169
9月	47	171	3月	50	202
			合計	602	2171

※電話訪問員からの午前中の電話に回答がなく、午後から安否確認をした件数 94 件

○電話訪問員会議・研修

月 日	項目	内容
4月12日	第1回電話訪問員会議	事務連絡、近況報告・事例検討
7月20日	第2回電話訪問員会議	事務連絡、近況報告・事例検討
9月22日	第3回電話訪問員会議	事務連絡、近況報告・事例検討
11月11日	第4回電話訪問員会議	事務連絡、近況報告・事例検討
3月13日	第5回電話訪問員会議	事務連絡、近況報告・事例検討

分析・課題

- 電話による訪問であることから、コロナ禍でも大きな影響を受けることなく事業継続できており、主

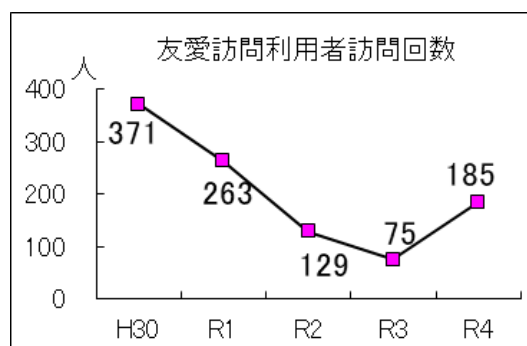
にひとり暮らし高齢者の安否確認としても有効に機能している。今後もサービスの周知を積極的に図りたい。

○訪問員においては令和4年度4月に1人が退任、その後1人が就任されたため全体としての増減はない。ただし依然として欠員状態であるため早急に補充する必要がある。また、訪問員の高齢化も進んでおり、安定した事業継続のためにも次世代の担い手を発掘したい。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	友愛訪問事業		市		

結果の概要

- 友愛訪問員6人が、週1回1時間程度高齢者宅を訪問し話し相手となることで、孤独感の緩和を図った。
- 訪問員から報告のあった利用者の心身の変化を家族や社協内他部署、地域包括支援センター、ケアマネジャー等に伝え、連携して事故の防止を図った。
- 熱中症予防や新型コロナウイルス感染予防、振込め詐欺等への注意喚起と情報提供を訪問員を通じて適宜行った。
- 新型コロナウイルス対策として、フェイスシールド、手指消毒スプレーを各訪問員に配布し、感染症対策を行ったうえで訪問を実施した。
- 利用者宅の窓を開けて換気をお願いし、訪問時お互いが安心できる環境づくりを徹底した。
- 抗体・抗原検査キットを訪問員へ配布し、訪問に不安を感じる時に任意で検査ができるようにした。



実績等

月	利用者数 (人)	訪問 (回)	友愛訪問員連絡会		
			回数	日付	内容
4	8	12	1	13日	新年度体制、活動報告、情報交換等
5	7	14	1	11日	活動報告、情報交換等
6	7	14	0	/	なし
7	7	12	1	13日	活動報告、情報交換等
8	7	10	0	/	なし
9	7	14	1	7日	活動報告、情報交換等
10	9	19	0	/	なし
11	9	19	1	9日	活動報告、情報交換等
12	9	18	0	/	なし
1	9	20	1	11日	活動報告、情報交換等
2	9	17	0	/	なし
3	9	16	1	8日	活動報告、情報交換等
計	97	185	7		

分析・課題

- 訪問員、利用者共に安全に訪問できる環境をつくり、訪問回数が増加傾向にある。

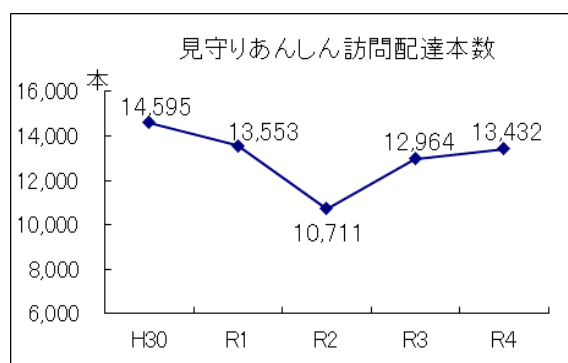
- 歩行困難で外出して人と会う機会が減った、また、聞こえにくくなり大勢が集まる場所での会話が困難になった等の理由で、事業のニーズが高まっているが、新型コロナウイルスの影響により、訪問員が感染を恐れて休止を希望されることがあり、現状では新規の利用者宅への訪問依頼を受けにくい状況にある。
- 訪問員が高齢化傾向にあり、安全に活動できるよう引き続き活動環境（活動地域、利用者の担当数および訪問間隔）の配慮が必要と考えられる。
- 新規訪問員獲得が求められるが、事業の性質上容易ではない。地域支援係やボランティアコーディネーター等とも連携し新たな担い手を発掘したい。

4 企業との協働活動

番号	事業名	財源			
		自主 歳	補助	委託	事業
(1)	見守りあんしん訪問事業				

結果の概要

- 週2回（月曜日と木曜日）ヤクルトレディが、ひとり暮らし高齢者宅を訪問し乳酸菌飲料の手渡しと声掛けで安否確認を行った。
- 令和4年度における配達本数の増加要因は、利用者数の増加によるもので、新型コロナウイルスの感染拡大前年の配達本数並みとなった。
- ヤクルトレディは前年度に引き続き、マスク着用や手渡し前の手指消毒など、感染対策を実施しながら訪問をした。
- 訪問時、ヤクルトレディが利用者宅の異変や利用者の変調を察知した際の社協への緊急連絡が徹底されてきた。
- 訪問状況の把握やスムーズな利用につなげることを目的とした、東京ヤクルト販売(株)市内配達区域、4センターとの意見交換は新型コロナウイルス感染の現状を鑑みて本年度も開催を見送った。
- 東京ヤクルト販売(株)、緊急連絡先、民生児童委員、ケアマネージャー、地域包括支援センターおよび地域福祉コーディネーターなどと連携し、ひとり暮らし高齢者の安心のみならずご家族の安心にもつなげることができている。



実績等

月	利用者数 (人)	配達本数 (本)	支払金額 (円)	安否確認 (件)	月	利用者数 (人)	配達本数 (本)	支払金額 (円)	安否確認 (件)
4月	183	1,116	96,429	38	10月	197	1,185	102,389	30
5月	186	1,011	87,371	27	11月	197	1,058	91,437	20
6月	189	1,312	113,406	35	12月	202	1,222	105,584	57
7月	187	1,004	86,763	35	1月	202	1,045	90,305	52
8月	191	1,007	87,028	31	2月	200	1,015	87,719	33
9月	194	1,145	98,903	37	3月	199	1,312	112,638	51
※利用者数には休止者を含む					合計	2,327	13,432	1,159,972	446

- 安否確認の件数は446件であった。(令和3年度:422件/令和2年度:303件/令和元年度:487件)
職員の自宅訪問による安否確認は無く、全てご本人および御家族への電話連絡にて安否確認が行えた。
- 新型コロナウイルス感染者数の減少と感染対策の緩和措置の影響により、利用者の外出機会が増加傾向にあり、それに伴い安否確認数も増加傾向にある。
- 利用者の転居や死亡、他サービスの利用による辞退者も増加しているが、それ以上に新規利用者も増加したことにより配達本数も増加した。(新規利用者数:令和3年度:183人/令和2年度:183人)

分析・課題

- 他のサービスを利用されていない方にとって、大切な見守りの機会となっている。
必要と思われるサービスや支援の受け入れに拒否的な方も本事業への抵抗感は薄いようで、今後の適切なサービスや支援へつなげるきっかけともなっている。
- 利用者自身の新型コロナウイルス感染対策により、利用者の外出機会や会話の機会は減ったが、ヤクルトレディの訪問と声掛けや会話は、ヤクルトレディと利用者との繋がりをより強固なものとしている。
- 孤独死や孤立死は依然社会問題となっており、見守りが行き届いていない高齢者の利用につながるよう、広報活動を含め引き続き事業の周知をしていきたい。

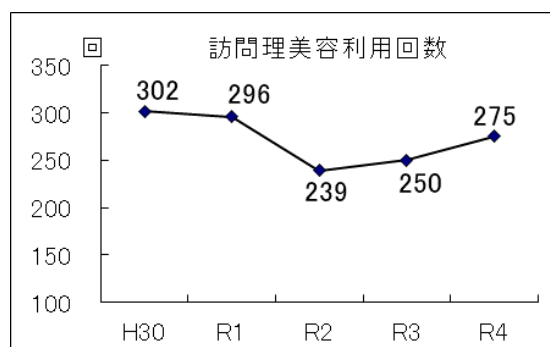
番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	高齢者訪問理美容サービス		市		

結果の概要

- 令和4年度新規申請者は95件であった。申請件数も利用件数も増加した。
- 従事者のサービスの質を高めるため、理容組合・美容組合の会員を対象に、『利用者対応時の注意点』『訪問時の注意点』等、をテーマに研修会を実施した。美容組合のみ、多摩府中保健所の衛生講習も同日に実施した(保健所の講習は美容組合が調整)。
- サービス対象外である要介護2以下の方からの「実費でも訪問理美容を依頼したい」という問い合わせには、以前に引き続き協力理容店と美容組合の「福祉美容サービス」を紹介する等の対応をした。
- ふくしの窓、市報に事業の利用案内を掲載した。

実績等

- 利用回数 275回(理容107回/美容168回)
- 申請者数 171人(令和3年度146人)
- 理美容券を全て使用した人は37人であった(申請者数の約22%)。令和3年度より、11人増加した。



分析・課題

- 令和4年度は令和3年度に比べて、申請者数が25人増加し、利用回数は25回増加した。対象外の方からの問い合わせも依然あり、今後も続くと思われる。
- 利用者アンケートを実施したところ、「外出することが難しいので訪問してもらえてありがたい」「丁寧に対応してもらえて嬉しい」等、サービス内容に満足しているという回答が多く、訪問による調髪のニーズの高さがうかがえた。
- 訪問調髪ニーズが高い一方、協力理容店の減少が課題である。

○理容・美容両組合とも、手指消毒・マスク着用を徹底して利用者宅を訪問し、器具の消毒も通常どおり入念に行い、新型コロナウイルス等の感染防止に努めている。

5 人材育成

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	手話講習会事業		市		○

結果の概要

- 入門クラス・基礎クラス・養成クラス（基本・応用）全てを実施した。
- 手話講習会実施にあたり、令和3年度に引き続き感染症対策として下記の対応を行った。
 - ・1回の授業を1.5時間から2時間に延長し、厚生労働省の手話奉仕員及び手話通訳者の養成カリキュラムの規定時間に基づき、各クラス受講回数を削減した。
 - ・感染症対策として、受講生全員にフェイスシールドを、講師と世話人に眼鏡型低反射フェイスシールドを配付した。
 - ・館内空調とサーキュレーターを利用して換気を行った。
 - ・授業開始前及び終了後は世話人による消毒作業を行った。
- 新型コロナウイルスによる感染拡大のため、一部授業をオンラインで行った。ただし、養成応用クラスは講師・世話人と受講生の人数を合わせても10人以下と少人数であること、手話通訳養成に向けた最終クラスであることを踏まえ、対面授業を継続した。
- 新型コロナウイルスによる欠席の取扱いについて、以下の通り定めた。

本人の状況 授業形態	新型コロナウイルス陽性	濃厚接触者
	対面授業	欠席 (出席扱い)
オンライン授業	参加可 ※欠席の場合でも出席扱い	参加可 ※欠席の場合でも出席扱い

- 手話講習会養成クラス選考試験は、感染症対策を行い実施した。24人が申込み、20人が受験し、10人が合格となった。

実績等

○講習課程

入門クラス18回・基礎クラス23回・養成クラス27回の講習会を実施した。

- ア 技術取得 入門17回・基礎22回・養成基本26回
- イ 学習発表会 中止
- ウ クラス別講演会 年1回
- エ 全体講演会 中止

○受講者数

	コース名	定員	受講者数(人)	修了者数(人)
	火曜日 昼間	入門	25人程度	23
基礎		20人程度	14	14
養成基本		10人程度	9	9

金曜日 夜間	入門	25人程度	26	20
	基礎	20人程度	17	15
	養成応用	15人程度	5	5
合計		105人程度	94	81

○講師会

7月、11月、3月に実施。

○世話人会

4月、11月、3月に実施。

○講師研修

10月、1月、3月に実施。

講師：宮澤 典子氏 一般社団法人全国手話通訳問題研究会 副会長

分析・課題

- 手話普及コースの入門・基礎クラスは幅広い層が参加している。クラス別講演会やろうゲストを招いての授業を通して、障がい理解の促進、受講生の学習の意欲の向上や受講生同士の交流を図ることができた。
- より一層の手話の普及と手話通訳者の養成を図るため、講師・世話人の確保やクラス編成等の課題について検討を進めていく必要がある。
- コロナ禍において、受講人数・授業回数や時間の見直し、オンライン授業を実施しているが、今後手話の学習への長期的な影響を検討しながら、講習会を運営する必要がある。
- 口形を生かした手話指導を行うことから、消毒や換気の徹底・フェイスシールドの配付・定員の削減を行い、受講生の安全確保に努めていく。
- 令和5年度より開講式や閉講式、交流会などのイベントの再開を検討する。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(2)	研修の場の提供				

結果の概要

- 社会福祉の実践・実習教育として、大学等の各種学校及び企業の人材育成に協力し、研修生、実習生の受け入れを行った。
- 新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、予定していた実習や報告会について受入方法の変更（オンラインでの講義等）の申し入れがあった。

実績等

○令和4年度実習生受入校・企業（年度当初の受入予定校含む）

No.	学校	人数	日数	No.	学校	人数	日数
1	桜美林大学	1人	180H	10	淑徳大学	1人	180H
2	日本社会事業大学	1人	180H	11	ルーテル学院大学	3人	30H
3	駒澤大学	1人	180H	12	桐朋学園大学	3人	5日
4	日本大学	1人	180H	13	明治学院大学	1人	5日
5	大妻女子大学	1人	180H	14	電気通信大学	1人	5日

6	目白大学	1人	180H	15	調布特別支援学校	26人	1日
7	武蔵野大学	1人	180H	16	慈恵第三看護専門学校	50人	1日
8	日本福祉教育専門学校 (通信課程)	1人	180H	17	調布市役所(実習生)	2人	6日
9	日本女子大	1人	180H				

※No.1～11は社会福祉士実習、No.12～14は介護等体験、No.15は就業体験、No.16は臨地実習(老年看護学)

※例年受け入れている京王バス、中学生の職場体験については、新型コロナウイルスの影響で実習依頼なし。

分析・課題

○社会福祉士実習については、令和4年度実習より受け入れ体制を長期分散実習とし、約4か月間にわたる8月25日～12月16日とした。(180時間以上)

6 団体支援等

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	地域福祉活動支援事業			市	

結果の概要

- 地域で活動を行っている団体に対して、活動の充実、発展を支援するための助成事業を実施。
- 申請4団体のうち3団体が書類選考を通過。公開プレゼンテーション等を経て、令和4年度は3団体に対し助成が実施された。
- 年度末の活動報告会では、各団体がお互いの報告を聞き、その後の交流会ではそれぞれの団体が抱える課題等について活発な情報交換が行われた。

実績等

○選考

日程	令和4年4月23日
場所	調布市総合福祉センター2階202～203会議室
内容	応募団体の公開プレゼンテーションにより、検討評価委員が選考。3団体に対する助成が決定された。

○助成団体(3団体)

団体	活動内容
調布LGBT&アライの会	当事者同士、当事者と支援者、支援者同士のセルフヘルプグループとして、より充実した共生社会を目指して活動している。外部講師を招きLGBT講座を開催したり、お話を定期的に開催している。メールや電話での相談も無料で受け付けている。
視覚障がい者のためのメンタルスキル講座 LaLa	視覚障がい者自身の自己肯定感を高め、自ら行動できるようになることを目指して活動している。オンライン講座を活用

	して、外出に困難を感じる方にも学びや交流の場を提供している。
おんがく広場	高齢者の集いの場、交流の場を作り、高齢者の孤立化や引きこもりの防止を目的として活動している。西部地域福祉センターやたづくりにて、楽しみながら脳トレと身体活動を行っている。

○活動報告会

日 程	令和5年3月25日
参加人数	18人
場 所	調布市総合福祉センター2階 202~203 会議室
内 容	助成団体3団体がこの1年の活動を報告。後半部分は交流会とし、団体同士の横の関係づくりに役立てた。 最後に検討評価委員により講評をしていただいた。

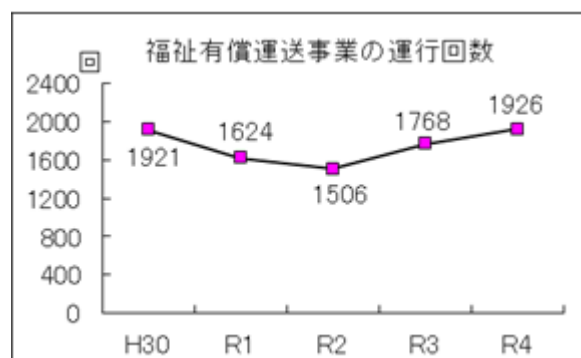
分析・課題

- 本助成事業は助成金支援だけではなく、新しい活動を行う団体活動全体の支援を目指している。地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員、また市民活動支援センターと連携して、包括的な支援をしていきたい。
- 新型コロナウイルス拡大が落ち着いてきたとはいえ、対面での活動の見通しを立てづらく、活動を思ったように行えない団体が多くある。またそのような状況下で様々な助成制度ができており、申請をする助成金の選択肢が増えている。そのため当事業への申請が顕著に減少しているため、効果的な広報を考えていくことが課題である。

番号	事業名	財源			
		自主 歳	補助	委託	事業
(2)	福祉有償運送に係る補助金交付事業				

結果の概要

- 既存の交通機関を利用して外出することが困難な市民の在宅支援の一助として実施する福祉有償運送を行うNPO法人への運営費補助を行った。



番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(3)	調布市老人クラブ活動支援事業			市	

結果の概要

- 新型コロナウイルスの感染者数が落ちき、ほとんどの単位クラブでは活動を再開しているが、連合会

では集まる人数が多いため、安全を考慮し中止としたものも多かった。コロナ禍で実施方法が工夫され、対面によらず実施する事業も増えた。一方、減少した対面での実施機会に参加者が集中する傾向もみられた。

- 市老連広報誌「不老又新」を会員だけではなく、市役所高齢者支援室窓口、各地域福祉センター、老人憩いの家に配架をし、広く市民に周知できている。
- 社協の歳末助け合い運動の自治会への資料配布の際、市老連の紹介と各クラブの活動状況がわかるチラシを同封した。
- 事業の実施可否等、スピーディーな伝達が必要な情報について、調布市老人クラブ連合会ホームページを活用、いち早く情報をアップし会員に周知することができた。
- 令和4年4月現在 単位クラブ数 35クラブ 会員数 1,579人

実績等

1	会議関係	総会	4月19日	58人
		理事会	12回	延207人
		会長会議	1回	28人
		会計監査	4月7日、10月26日	延4人
		総務部会	隔月	延39人
		健康部会	3回	延11人
		文化部会	3回	延24人
2	市老連研修会	新任会長・役員研修会	中止	
		管外指導者研修会	中止	
		会計相談会	1月27日	3クラブ
3	友愛実践活動	友愛リーダー会議	4回	延30人
		友愛実践活動研修会	2回(健康教室合同含む)	延145人
4	グラウンドゴルフ大会	第27回大会	10月21日	126人
		専門委員会、反省会	3回	延37人
	グラウンドゴルフ練習	毎週水曜日 調布基地跡地運動場 自由広場		自由参加
	ペタンク大会	第45回大会	7月8日	41人
		専門委員会、反省会	2回	延11人
	輪投げ大会	第59回大会	中止	
		専門委員会、反省会	2回	延17人
	みんなの健康教室	教室	3回(友愛研修合同含む)	延185人
		専門委員会	5回	延38人
	ポッチャ教室	練習	3回	延75人
健康吹き矢教室	練習	3回	延15人	

5	将棋大会	将棋大会	中止	
		専門委員会	1回	1人
	囲碁大会	囲碁大会	中止	
		専門委員会、反省会	2回	延10人
	俳句大会	俳句大会	郵送による大会を実施	53人
		専門委員会	1回	3人
	会員作品展	会員作品展	中止	
		専門委員会、反省会	2回	35人
	芸能大会	第55回大会	中止	
		リーダー会議	2回	延13人
	カラオケふれあいの集い	第31回カラオケふれあいの集い	中止	
		専門委員会	1回	7人
	不老又新		不老又新夏号、新春号の発行	年2回
	歴史教室	歴史教室	4回	延131人
		専門委員会	3回	延15人
	囲碁教室	練習・実践	9回	延57人
英語に親しむ会	講義	5回	延27人	
日帰り旅行		中止		
一泊旅行		中止		
6	女性部全体会		1回	34人
	女性部常任委員会		5回	延74人
	女性部ブロック会議		4回	延179人
	調布よさこい		不参加	
	東老連シニアフェスタ		11月22日	24人
	女性部おたのしみフェスタ		中止	
7	木島平村交流		中止	
	玩具の伝承	調布よさこい	8月27日	9人
		福祉まつり	12月4日	8人
		むさ森公園フェスタ	3月5日	15人
		富士見台小昔遊び	1月25日	25人
		実行委員会	計4回	延37人
	新春のつどい	式典・懇親会	中止	
敬老会		中止		

8 東京都老人クラブ連合会関係	女性部全体会	5月19日	2人
	東老連レクダンス講習会	6月30日	3人
	東老連新任単位クラブ会長研修会	不参加	
	東老連輪投げ大会	6月28日	10人
	関東甲信越静ブロック老人クラブリーダー研修会	6月23・24日	2人
	東老連手作り品講習会	7月28日	2人
	東老連女性リーダー研修会	9月8日	1人
	東老連ペタンク大会	10月19日	6人
	東老連グラウンド・ゴルフ大会	11月10日	6人
	東京都老人クラブ大会	12月5日	5人
	市区町村老連会長並びに役員研修会	12月14・15日	1人
	東老連新年会	不参加	
	全老連創立60周年記念 全国老人クラブ大会	11月8日	1人
9 東老連多摩地区第4ブロック関係	多摩地区第4ブロック女性部推進リーダー会議	中止	
	多摩地区第4ブロック会議	7月27日	3人
	多摩地区第4ブロック軽スポーツ交流会代表者会議	↑合同	
	多摩地区第4ブロック健康教室事業	11月1日	1人
	多摩地区第4ブロック女性部会連絡会議	中止	
	多摩地区第4ブロック軽スポーツ交流会輪投げ大会	1月18日	12人
	多摩地区第4ブロックシニアフェスタ練習	2回	延7人

分析・課題

- 会員減少の原因の一つである会計処理問題への対策として、会計に不安をもつクラブが個別で相談できる「会計相談会」を昨年度より企画した。今年度は3クラブが相談に参加したが、会計だけではなく、クラブの運営に関しての相談もあった。会計に限らず個別相談に応じる機会を改めてもつことも検討したい。
- 会員が減少・高齢化しているクラブが増加しており、今年度は2クラブが解散した。若い世代の新規会員を増やすためニーズに合った活動を提案すると同時に、クラブ内での後継者教育を実施していく必要がある。
- 若い世代の会員を増やすために、これまで主に紙ベースで行っていた広報活動に加え、ホームページを公開している。コロナ禍で事業活動が減っている中、単位クラブの個別ページも含め情報の更新ができています。ページビューは令和3年度比143%となった。
- リーダー不在で休会となっているクラブ、高齢化に伴い活動が少なくなっているクラブは、同じ地区協議会内で協力し活動の安定化を進めている。
- 会員増加の総務部案として、単位クラブの活動の見える化を推進することとなった。のぼりやベスト

などの作成、配布を令和5年度に実施したい。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(4)	調布市障害者（児）団体連合会への支援				

結果の概要

○新型コロナウイルスの感染拡大を受け、過去2年書面形式で開催した総会並びに中止となった評議員会や交流会、合同会議について、内容を見直したうえですべての行事が開催された。

実績等

行事	実施日	実施回数	参加者	内容
会計監査	6月21日	年1回	監査2人 事務局3人	令和3年度会計監査
総会	6月30日	年1回	評議員13人 事務局3人	令和3年度事業報告及び決算 令和4年度事業計画及び予算
評議員会	○第1回 6月30日 ○第2回 11月17日	年2回	○第1回 評議員13人 事務局3人 ○第2回 評議員9人 事務局3人	○第1回 年間行事について ○第2回 交流会の振り返りと合同会議について
交流会	10月6日	年1回	評議員13人 事務局3人	各団体の状況報告及び意見交換
合同会議	2月9日	年1回	評議員13人 行政4人 警察署1人 消防署1人 事務局3人	「障がい理解をめざして、困りごとを共有する」をテーマにグループワークにて意見交換

分析・課題

○令和5年度の年間行事についても、都度評議員で協議しながら、開催の有無や開催内容について検討していく必要がある。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(5)	福祉団体等事業助成	基	市		

結果の概要

○障がい者団体や高齢者団体等の会運営や事業に対し助成を行い、団体の活動を支援した。
○調布市遺族厚生会 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から平和祈念祭が縮小となったため、助成した大会助成金105,000円の内80,000円が返還された。

○調布市原爆被害者の会 2年ぶりに平和祈念式典（長崎・広島）に参加できることとなった。

実績等

○団体助成、大会助成

No.	団体名	助成内容	助成額
1	調布市原爆被害者の会	会運営費・平和大会	20万円
2	調布市遺族厚生会	会運営費・平和祈念祭	28万円
3	共同募金調布地区協力会	会運営費	20万円

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(6)	機材の貸出				

結果の概要

○ボランティアグループ、福祉施設、公的機関等の事業に対して、テント、パネル、スクリーン等の社協機材の貸出を行った。

○故障等への対応、貸出のルールの特化、物品ごとの色分け等、工夫を行ったことで、予約の重複等、大きな問題はなく貸出ができた。

実績等

○貸出件数一覧

社協機材	貸出件数	社協機材	貸出件数	社協機材	貸出件数
テント（大）	15件	ポップコーン機	9件	パネルフック	3件
テント（小）	12件	ブルーシート	4件	ビンゴ抽選機	0件
テントウエイト	19件	ポッチャボール	20件	拡声器	4件
ワイヤレスアンプ	95件	CDラジカセ	166件	折りたたみ椅子	12件
プロジェクター	158件	有線マイク	30件	スクリーン	219件
冷水用ジャー	0件	パネル	8件	輪投げセット	14件
延長コード	85件	パネル足	8件	譜面台	10件
移動式赤ちゃんの駅	5件	書画カメラ	14件	Blu-rayプレイヤー	0件
合計	910件				

分析・課題

○福祉活動の充実を側面から支援するため、貸出ルールの徹底及び貸出物品を使いやすく整備する。

○デスクネットの貸出予約ページを整備し、予約の重複等問題が起きないように徹底したい。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(7)	後援・共催事業				

結果の概要

○市内各種団体が福祉活動を実施するに当たり、依頼に応じて後援を行った。

実績等

○後援事業一覧

No.	事業名	主催団体
1	劇団芸優座 第九回春の公演 「～それぞれの絆 vol. 2～」	株式会社 劇団芸優座
2	子どもたちのための音楽祭	調布さくらウインドオーケストラ
3	第17回 調布フィーリングアーツ ダンス&バレエライブ	調布フィーリングアーツ
4	社会貢献事業（能力向上セミナー）	NPO 法人日本ライフナビゲーター協会
5	第45回住宅デー	東京土建一般労働組合調布支部
6	ウクライナ人道支援チャリティーコンサート	TOKYO シャンソンフェスティバル実行委員会
7	CHOFU Has No Borders!	公益社団法人調布青年会議所
8	介護施設・事業所向けBCP作成研修会	株式会社保険あつとなびプラネット
9	第33回（令和4年度）福祉講演会	公益財団法人調布ゆうあい福祉公社
10	第8回調布市伝統文化交流会	調布伝統文化伝承の会
11	合同企業説明会	パーソルテンプスタッフ株式会社
12	調布さくらウインドオーケストラ 第5回定期演奏会	調布さくらウインドオーケストラ
13	調布・多摩・府中ほっとハート2022 in 調布駅前広場	調布・多摩・府中ほっとハート2022 In 調布駅前広場 実行委員会
14	福祉映画上映会	調布市福祉作業所等連絡会
15	手作り市	手作り市
16	第8回 調和 SHC フェスタ	NPO 法人調布 SHC 倶楽部
17	「東日本大震災慰霊祭2023～あの日を忘れない。 ～」一再結集 Go To トウホク from チョウファー	東日本大震災慰霊祭実行委員会
18	第18回深大寺短編恋愛小説「深大寺恋物語」公募 事業	深大寺短編恋愛小説実行委員会
合 計		18 件

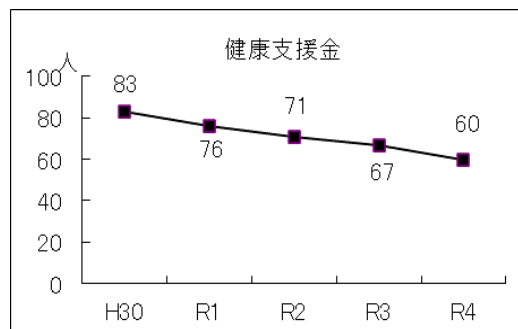
○共催事業一覧

No.	事業名	主催団体
1	高齢者・障害者のための成年後見相談会	公益社団法人成年後見センター・リーガルサポート東京支部
2	「北ノ台ふれあい朝市」	北ノ台まちづくりネットワーク
合 計		2 件

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(8)	健康支援金		市総		

結果の概要

○健康支援金給付事業事務取扱要領に基づき、被爆者健康手帳の交付を受けている方に健康支援金を口座振込みにより給付し、福祉の増進を図った。



実績等

○支給人数60人

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(9)	中央競馬馬主社会福祉財団助成事業				

結果の概要

○平成24年度より中央競馬馬主社会福祉財団の公益財団法人の移行に伴い、NPO法人に関して直接助成が可能となった。引き続き無認可の施設に関しては社協からの申請・管理となる。
 ○NPO法人が申請を行う場合、当該施設の所在地域の社協の推薦状が必要となり、令和4年度は申請3件。
 ○事業総額費の70%を財団が助成を行い、30%は施設の自己負担分となる。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(10)	招待事業				

結果の概要

○企業、奉仕団体より、障がい者や高齢者、事業協力者に対する招待をいただき、社協が窓口となって、イベント等に招待している。令和4年度は新型コロナウイルスの影響により、例年招待のあったイベントが実施されなかったため、件数が少なかった。

実績等

○OFC 東京ホームタウンサポーターの協賛企業より、社会貢献シートとしてチケットのご寄付を頂いた。

日にち	対戦相手	招待人数	招待施設名
10月8日(土)	湘南ベルマーレ	10人	NPO 法人リフレッシュ工房
			社会福祉法人調布市社会福祉事業団
			放課後等デーサービス チル・リブ西調布ルーム
			社会福祉法人大泉旭出学園 旭出調布福祉作業所
			NPO 法人にこにこの会
			社会福祉法人調布を耕す会 しごと場大好き

○調布市花火大会への招待

新型コロナウイルスの影響で花火大会が中止となり、招待はなかった。

○味の素スタジアムFC東京公式戦招待

新型コロナウイルスの影響で、実施されなかった。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(11)	調布市いきいきクラブ調理運営協議会事務局			市	○

結果の概要

- 通所介護アイビーの利用者に昼食を提供する調理ボランティア団体「調布市いきいきクラブ調理運営協議会（以下「協議会）」の事務局として支援した。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、調理活動は7月25日、27日、28日、8月、9月は中止した。実施回数は延べ185回。ブロック長会は8月は中止し、実施回数は11回。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、使い捨てのプラスチック容器と割りばしで昼食を提供した。また、引き続きアイビーの利用者との会食は行わず、ボランティアはアクリル板を設置している別室での黙食をお願いした。
- 退会する方が多く慢性的に人手は不足していたが、会員間の協力により昼食提供を続けることができた。
- 新規登録者は7人。会員数59人・長期欠席者1人（令和5年3月31日現在）。
- 会員に1回500円の謝礼金の支払いを行った。延べ814人。
- 7月の研修会と見学会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

実績等

	項目	回数	内容
会議 関係	総会	0回	令和3年度決算・令和4年度予算等 文書にて議決した
	役員会	11/12回	活動内容（献立等）の決定・運営方法について
	ブロック長会	11/12回	材料費の支給・情報交換・懸案事項の検討
	監査会	1回	令和3年度決算監査
研修	研修会	1/2回	「食品衛生について」 「現在のアイビー利用者の食形態や近況について」
	見学会	0回	新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施
活動	調理活動	185回	通所介護「アイビー」利用者の昼食作り 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、約2か月の活動を中止した。
	大掃除	0/2回	大掃除とはせずに各ブロック活動日に分担した担当箇所を掃除した。
	細菌検査	10回	ボランティアは月1回細菌検体を提出（活動中止期間中の2か月は未実施）
	避難訓練	0回	総会後に行う予定だったので未実施

広報	ボランティア 募集	8回	市報2回 ふくしの窓2回 えんがわだより2回 ウィンドウ美術館（総合福祉センター1階窓）1回 調布FM出演 1回
----	--------------	----	--

分析・課題

- 第3月曜日の3ブロックと第4火曜日の8ブロックは全員が欠員となっており、他ブロックからのボランティアによる応援にて活動を継続した。また、第1月曜日の17ブロックについても1月以降全員が欠員となり、他ブロックからのボランティアによる応援で活動した。欠員ブロックに重複して活動をする協力して下さる方が複数人いる。引き続き、欠員ブロックへの協力を要請していくと同時に、ボランティア募集の広報活動を強化していく。
- ボランティア募集の広報として、従来の記事掲載で募集したほか、小さめで配布しやすいパンフレットを作成し、希望するボランティアに渡して身近な人へ配布してもらった。今後も積極的に広報を行い、ボランティアを増やしていく。
- 第5週目の協力に関しては、ボランティアの過度な負担とならないよう、当面は見合わせていく。
- ひき肉を使ったメニューの再開を希望するボランティアからの声が高まり、再開に向けた取り組みとして12月から主菜の中心温度測定を開始した。また、1月の研修会にて保健所より講師を招き、各ブロック1名以上が研修会に参加して食品衛生について理解を深めた。令和5年度よりひき肉を使ったメニューを再開する予定である。
- 肉に赤身が残っていた、容器に赤いものが付着していた、キッチンペーパーが混入していたことがあったため、美味しさに加え安全面にも配慮していただけるよう、引き続き周知、徹底をしていく。
- 令和3年度に実施したアンケート結果をもとに、今後の総会やブロック長会議のやり方、役員会の体制などについて、ブロック長会議にて検討し、様々な意見が交わされた。今後、ボランティアが負担を感じることなくやりがいをもって活動を継続していけるように、役員会およびブロック長会議にて議論を重ねていく。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(12)	地域福祉コーディネーター（コミュニティソーシャルワーカー）（重点項目）			市	

結果の概要

- 以下の福祉圏域において制度の狭間の課題等、様々な相談を受けるとともに、各種団体・機関と連携しながら、支え合いの仕組みづくりを目指した。

福祉圏域 (小学校区)	主な担当地域
緑ヶ丘 滝坂	仙川町1～3丁目、緑ヶ丘1・2丁目、 菊野台1丁目の一部、 東つつじヶ丘1～2丁目・3丁目の一部、 西つつじヶ丘1～4丁目の一部、若葉町1丁目の一部
若葉 調和	東つつじヶ丘3丁目の一部、 西つつじヶ丘3・4丁目の一部、入間町1～3丁目、

	若葉町1丁目の一部・2・3丁目、国領町8丁目の一部、 菊野台1丁目の一部・2・3丁目
上ノ原 柏野	佐須町1丁目の一部・2丁目・3丁目の一部・4・5丁目、 柴崎1・2丁目、菊野台1丁目の一部、 西つつじヶ丘1丁目の一部・2丁目の一部、 調布ヶ丘3丁目の一部、深大寺元町2丁目の一部、 深大寺東町2丁目の一部・3・4丁目、 深大寺南町1～3丁目の一部・5丁目の一部
北ノ台 深大寺	深大寺北町1～7丁目、佐須町1丁目の一部、 深大寺元町2丁目の一部・3～5丁目、 深大寺東町1丁目・2丁目的一部分・5～8丁目、 深大寺南町1～3丁目的一部分・4丁目・5丁目的一部分
第二 八雲台 国領	佐須町3丁目的一部分、調布ヶ丘2丁目・3丁目的一部分、 八雲台1・2丁目、国領町1～5丁目、8丁目的一部分、 布田2・3丁目
染地 杉森 布田	国領町6・7丁目、染地1～3丁目、 布田5・6丁目、多摩川6・7丁目
第一 富士見台 多摩川	富士見町2丁目的一部分、下石原1～3丁目的一部分、 小島町1～3丁目、多摩川1～5丁目、布田1丁目・4丁目、 調布ヶ丘1丁目・3丁目的一部分・4丁目、深大寺元町1丁目
第三 石原 飛田給	飛田給1～3丁目、上石原1～3丁目、富士見町1丁目、2丁目的一部分・3～4丁目、 野水1・2丁目、西町

実績等

<共通>

- 社会的孤立・生活困窮・サービス未利用・近隣トラブル等の制度やサービスだけでは解決が困難な課題や複雑化複合化した課題等の相談について、必要な支援機関につなげるとともに、地域住民や地域支え合い推進員及びボランティアコーディネーターを含む様々な専門職・関係機関と連携し、課題解決に向けた働きかけを行った。
- 重層的支援体制整備事業準備移行において、「多機関協働事業」「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」「参加支援事業」について、行政とともに専門職や関係機関の連携の充実および住民の複合化・複雑化した支援ニーズに対応する事業となるための検討を行った。
- 「多機関協働事業」の実施において、行政と連携しながら、相談支援包括化推進会議および福祉圏域別専門職等ネットワーク会議、支援機関向けの重層的支援体制整備事業デモンストレーションを通して、関係者の連携の円滑化および多機関連携の支援体制の構築の検討を行った。
- 「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」実施において、相談支援における訪問や地域のイベントや会議等への参加を行い、個別支援ニーズや地域生活課題を把握するとともに、当事者に対して丁寧な働きかけ、関係性構築、伴走支援を行った。
- 「参加支援事業」の実施において、様々な課題を抱えている住民が孤立することなく生活できる地域づくりを目指して、支援機関や企業・商店、行政等と連携しながら、住民とともに既存の社会資源の拡充および当事者と社会とのつながりづくりに向けた取組の実施や立ち上げ支援を行った。

- 第5次調布市地域福祉活動計画の推進にあたり、地域づくりに向けた活動や取組を地域住民や関係機関と協働しながら実施。第6次活動計画の策定において、8つの福祉圏域別策定会議と全域策定委員会の開催に向けた準備を行った。
- 個別支援および地域支援に関連する研修に参加するとともに、室田信一氏（東京都立大学准教授）によるスーパービジョン（指導・助言等）を受けて、職員の資質向上に努めた。
- ひきこもり等に関する3つの団体が開催する取組について、運営に協力した。「調布ひきこもり家族会やまぼうし」は懇談会を6回、学習会を4回行い、延べ103名の参加があった。他市社協や団体からの見学を受け入れるなど、近隣地域との連携が進んでいる。ひきこもりや生きづらさを抱える方同士が対話・交流する当事者会「ちょうふのこやど」は12回行い、毎回10名程度の参加があった。ひきこもりや対人関係の難しさ等、生きづらさを抱える女性自認の方が、ありのままに受け止められ、ゆるやかにつながれる場「調布女子会のみま」を4月から開始した。14回行い、延べ77名の参加があった。1月には講演会を開催し、これをきっかけに参加者が増えた。
- 市内の子ども食堂やフードパントリー団体への寄付や助成金、勉強会等の有益な情報の提供を行うとともに、団体同士の情報交換を目的とする会議を2回実施した。またひとり親家庭向けや信仰上食に制限のある方向けの団体や勉強のお手伝いやフリースペースを兼ねた食提供を行う団体等、あらゆる新たな視点での子ども食堂の新規立ち上げの支援を行った。
- 空き家や空き店舗、社会福祉施設、自宅や店舗の一部スペースの活用など、行政や住民、地域支え合い推進員とともに立ち上げに向けた支援を3件行った。
- 令和4年度「地域福祉ファシリテーター養成講座」修了生との話合いや視察など合わせて11回実施。定期的な情報交換や共有、また地域活動の視察や体験を通して、具体的にファシリテーターとして自分たちが何ができるのかを模索する1年であった。
- 市内の企業や商店、店舗や奉仕団体等による地域貢献したいという声に対し、市内の地域活動や子ども食堂等へ寄付やチケット配布、親子向けワークショップ実施など、あらゆる地域活動や取組に繋いだ。

○実相談件数

福祉圏域（小学校区）	個別支援	地域支援	合計
緑ヶ丘・滝坂	29	32	61
若葉・調和	71	63	134
上ノ原・柏野	68	51	119
北ノ台・深大寺	64	45	109
第二・八雲台・国領	50	33	83
染地・杉森・布田	68	43	111
第一・富士見台・多摩川	63	37	100
第三・石原・飛田給	31	15	46
全域・複数圏域		75	75
合計	444	394	838

○延べ活動件数（行動区分）

福祉圏域（小学校区）	訪問	来所	電話	メール	オンライン	その他	合計
緑ヶ丘・滝坂	231	68	363	156	9	142	969
若葉・調和	287	197	545	421	17	234	1,701

上ノ原・柏野	431	110	514	213	8	209	1,485
北ノ台・深大寺	304	121	640	550	27	467	2,109
第二・八雲台・国領	397	131	362	226	23	337	1,476
染地・杉森・布田	364	137	418	199	33	230	1,381
第一・富士見台・多摩川	300	163	403	138	33	110	1,147
第三・石原・飛田給	66	31	188	49	2	43	379
合計	2,380	958	3,433	1,952	152	1,772	10,647

分析・課題

- 相談の中には制度の狭間や複合的な地域生活課題が多く含まれ、必ずしも課題解決につながらない相談もある。その多くが、「精神疾患」や「発達障害」、生きづらさにつながるパーソナリティ等の背景が重なることにより、社会的孤立に繋がっているケースである。そのような相談に対応するためには、福祉、保健医療、就労、教育、司法、住宅等の多分野の専門職による支援体制をチームで行っていくことが必要である。調布市における令和5年度以降の重層的支援体制整備事業において、専門職および機関のネットワークの充実と地域住民等との地域づくりの充実に努める必要がある。
- 匿名性の高い相談や細かな配慮が必要な支援が増え、課題解決の見通しがつきにくい相談が多くあった。地域福祉コーディネーターの10年の活動で得た経験に加えて、他部署および他機関との連携、地域住民によるインフォーマル資源等の協力を得ながら、対応することができた。
- 地域福祉コーディネーターの特徴でもあるアウトリーチにて個別の訪問相談や地域のイベント、地域活動等へ積極的に出向くことで、支援者と関係が途切れやすい相談者への伴走的な相談支援や地域住民等からの情報提供や新規相談を受けることに繋がった。
- 企業や商店から地域貢献を一緒に考えてほしいという相談も増えている。各企業が持つ想いや強み、ノウハウと、地域生活課題や個人の困りごと等のニーズとを適切にマッチングしながら、企業の地域貢献活動を継続的な地域づくりや社会参加の取組へ繋げていく必要がある。

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(13)	ちょうふ地域福祉フォーラム				

結果の概要

- 新型コロナウイルス感染拡大以降、地域活動が従来のように思い通りに行えない状況が続いている。一方で、このような状況下だからこそ、つながりの大切さを感じて新たに活動を開始した、市内4団体から活動紹介を行っていただき、地域活動を身近に感じ、参加や参画する意欲を高めるとともに、新たな活動創出の促進を図った。
- 感染対策に留意しながら、広い会議室を活用して数年ぶりに会場開催のみの「ちょうふ地域福祉フォーラム」を実施した。活動報告後に参加者が発表者へ質問することで、より内容の理解を深めることができた。

実績等

タイトル	多様なつながりの大切さ
日時	令和5年3月12日 10:00~12:00
会場	調布市総合福祉センター201~203 会議室

<p>内 容</p>	<p>(1) 基調講演「コロナ禍における多様なつながりのチカラ」 講師 渡辺 裕一 氏（武蔵野大学教授）</p> <p>(2) 活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホを楽しむ会 ・スマホ倶楽部 ・ダブルケアおしゃべりの会 ・スタディールーム
<p>申込み</p>	<p>43名</p>

分析・課題

- ちようふ地域福祉フォーラムを通して、参加者だけでなく発表者同士がお互いの活動を知り、自身の活動のヒントを得る機会となった。
- ちようふ地域福祉フォーラムの開催情報をさらに多くの方へ届けるため、広報先や方法に関して見直し検討を図り、安心して住み続けられる地域を目指した地域福祉の意識を広げていきたい。